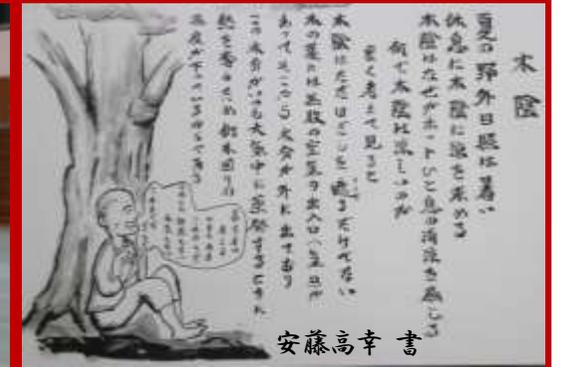


なかごう 8月号

中郷地区公民館だより 令和7年8月発行
発行 中郷地区公民館 TEL39-0713



安久小学校のやっさ祭りでも6年ぶりに披露された正応寺の子ども大太鼓踊



安藤高幸 書

青少年の健全育成のために

青少年の健全育成を目的に、小中学校、自治公民館、民生委員児童委員、交通安全協会、少年補導委員など24の関係者・団体で設置されている、中郷地区青少年育成協議会は6月25日(水)に中郷地区公民館で総会を開きました。

令和6年度の事業報告、決算などを承認をしたあと、新年度役員を選任し、令和7年度事業と予算について協議しました。

令和7年度も昨年度同様に、各校で「私もできるボランティア」と称した清掃・空き缶拾いや花植えなどの環境美化活動に取り組み、12月には心の感動体験発表や善行児童生徒の表彰を行う「心が元気フォーラム」を行うことが承認されました。

情報交換があり各校の生徒指導教諭から学校での様子や、児童生徒がSNSでトラブルに巻き込まれる事例があることなどが報告されました。

【中郷地区青少年育成協議会役員】

役職	氏名(所属)
会長	伊藤 寿朗(安久小学校校長)
副会長	山内 正一(中郷地区自公連会長)
副会長	田中 敏雄(梅北小学校校長)
副会長	濱川 千春(中郷中学校校長)
書記会計	小牧 啓介(安久小学校教頭)



▲中郷地区青少年育成協議会総会での新役員の紹介

総合研修会で児玉教育長が講演

中郷地区社会教育関係団体等連絡協議会(通称社教連)主催の総合研修会は7月4日(金)に都城グリーンホテルで開かれ、都城市教育長の児玉晴男さんに「地域と学校 ～子どもを真ん中に～」と題して講演いただきました。

教育長はスライドや写真、動画などのプレゼンテーションを用いて、中郷中学生ボランティアの地域活動の様子や中郷地区社会福祉協議会の子育ちサロンでの地域と子どもたちの関わりなどを紹介し、また日本のウェルビーイングを考えていくことが大切として、子どもたちが主体的に行っている各学校でのあいさつ運動や梅北小児童が郵便局を通じて古着を集めて海外の団体に贈った「届けよう服の力」などの例を紹介。子どもたちの思いが地域とつながり、社会へとつながっているとして、



▲子育ちサロンの様子を紹介



▲日本の幸福は協調的幸福と話す児玉教育長

はたちの集い説明会を開催

年明けに20歳の成人を祝う、令和7年度中郷地区はたちの集いの説明会は7月8日(火)に中郷地区公民館で開かれました。

本年度の対象は中郷中学校卒業で、平成17年4月2日から平成18年4月1日生まれの人。説明会には6人が参加してくれました。

式典の目的や昨年度までの様子などを紹介し、本年度の実行委員会を立ち上げることなどを説明しました。今後は8月25日(月)の夜に第1回実行委員会を開催する予定で、式典の日程や役割、アトラクションなどについて協議していきます。



▲説明会の参加者

安久小児童が民俗芸能を披露

小学生が地域の民俗芸能を披露するやっさ祭りは7月12日(土)に安久小学校で開かれました。

伝統芸能を継承し、地域に愛着や誇りを持たせようと開催されているもので、今年で32回目。正応寺の大太鼓踊り、藤田の先踊り、上安久の手拍子踊り、高野原の安久節、西豊満の俵踊り、下安久のサンバヤッサの6演目が披露されました。



▲西豊満の俵踊り 豊作に感謝して踊られる

感染症・熱中症予防について学ぶ

第3回高齢者いきいき学級は7月15日(火)に中郷地区公民館であり、都城ヤクルト販売(株)の森小夜子先生に感染症・熱中症についてお話いただきました。

感染症とはうつる病気のこと、ウイルスや細菌が体に入ることによって起きる炎症。病原体、感染経路、個体の条件の3要素があり、感染経路は接触感染、空気感染、飛沫感染、経口感染があり手洗い、うがい、マスクなどで予防できるが、個体の条件として、感染しても病気にならない人がいる。それは免疫力が違うからとのこと。

腸を元気にしておくことが健康につながる。腸内には良い菌と悪い菌がおり、腸内の良い菌を優勢に保つことが大事。心と体の元気とも密接に関係していると話されました。

また、野菜を1日350g摂取することや色の濃い野菜の比率を1/3以上とすることを勧められ、野菜が良い菌の餌になると話されました。

このほか、熱中症についてもお話いただき、熱中症で搬送される人の半分以上が65歳以上の高齢者という話を聞いて、参加者は予防法や水分補給などについて熱心に聞き入っていました。



▲栄養素をバランスよく摂取するよう話す森先生